

鎌倉市観光基本計画推進協議会第9回会議
第22回鎌倉市観光基本計画進行管理委員会 会議要旨

日時 平成26年11月10日（月） 15時～16時45分
場所 鎌倉市議会全員協議会室
出席者 21名
[推進協議会] 14名
梅澤会長、鎌倉市観光協会、
神奈川県神社庁 鎌倉・横須賀・三浦支部
江ノ島電鉄株式会社、東日本旅客鉄道株式会社横浜支社、
湘南モノレール株式会社、鎌倉漁業協同組合
鎌倉市自治町内会総連合会、鎌倉ガイド協会、
国際ソロプチミスト鎌倉、神奈川県警察鎌倉警察署
神奈川県警察大船警察署、神奈川県横須賀三浦地域県政総合センター
[進行管理委員会] 7名
古谷委員長（兼推進協議会）、中根副委員長、鷺尾委員、藤川委員、
太田委員、久本委員、奥野委員
傍聴者 2名

1. 開会あいさつ

2. 庶務事項

3. 議題

- (1) 報告事項① 「鎌倉市の観光事情」について 及び (2) 意見交換
事務局から「鎌倉市の観光事情」の説明を行い、その後意見交換を行った。

※発言者の表記は以下のとおりです。

(会長) …推進協議会会長 (会員) …推進協議会会員
(委員長) …進行管理委員会委員長 (委員) …進行管理委員会委員

(委員長) 観光客数増加については、閑散期である2月に増えたのが良い傾向である。
また観光消費額が増加したことは、市が投じている予算に対し、アウトカムとしての費用対効果は大きいと判断できる。国際観光については、今後タイなどの東南アジア、イスラム圏の観光客の増加が見込まれるため、ハラルを含め対応が求められる。2020年のオリンピックについても、ワーキングチームやタスクフォースを立ち上げ、市として対応すべき課題である。

(委員) 数字上の実績から、鎌倉は観光都市としては成熟化している。今後の課題としては、観光庁が掲げる外国人観光客数来訪者目標が2000万人に届くのが、2020年のオリンピックの前になり、それに伴い鎌倉の外国人観光客数も爆発的に増える可能性があるため、市を挙げて取り組む必要がある。

また、これからのインバウンド施策では個人での観光客への対応が必要となり、特に中国では高所得者層の訪日の気運が高まっており、鎌倉に来る可能性も非常

に高い。既存の寺社仏閣以外にも、個人の観光客が求める観光資源、特に生活文化資源といった鎌倉での生活ぶりに接してみたいとのニーズが非常に多い。鎌倉の生活文化を体験してもらうことも、おもてなしの一つである。

(会員) 外国人の方とお昼ごはんを一緒に作ったり、浴衣を着て神社を回るなど、ホームビジットやショートステイを通じ、鎌倉の生活文化に触れてもらうことは我々も取り組んでいる。鎌倉には外国に住んでいた方や、語学に強い人も多いので、例えば市で安全なビジターを紹介するなどのシステムができるとよいと思う。

(委員) 鎌倉らしさに触れたいというニーズは高いので、例えば車でなく電車で、平日なら空いているといったことを身近なところにPRするのはどうか。また茅ヶ崎、厚木は圏央道の開通に合わせ観光も盛り上がっている。鎌倉も気を引き締めて対応してもらいたい。なお、個人的には海水浴場のキッズ&ファミリービーチの結果が気になる。

(委員) 外国人にとって日本の魅力はまず食事であり、次に礼節、そして鉄道などの技術と報道されていた。鎌倉にはその魅力が凝縮されており、日本の暮らしぶりや生活文化を体験できる場所である。この会議も、これだけのメンバーが集まっているのだから、例えばオリンピックに向けて予算を5億円つけて、そこへ向かって合意形成をするなど、実行する場にしてもらいたい。

(委員) 県としても個人旅行への対応として、既存の観光資源ではない生活文化の体験を組み込んだ「神奈川チカタビ」という着地型観光商品を10月から売り出している。県内でも体験ツアーの動きは有るが、売り込みにはまだ課題があるので、是非「神奈川チカタビ」を活用してもらいたい。また東南アジア、イスラム圏の増加、イスラム独特の風習に対するおもてなしの養成も必要性を感じており、県としてもセミナーをしている。移動観光大学では、ムスリム、東南アジア向けのインバウンドのセミナーを予定している。

(会長) チカタビの登録自体に費用はかかるか。

(委員) 登録そのものに経費はかからないが、ツアーが売れた際に手数料が発生する。

(委員) 「神奈川チカタビ」は、ニーズもあるのでうまくいくと思う。

(委員) 住民としては、鎌倉が好きだが、一方で観光のせいで生活に悪い影響がでていると感じている。例えば地元の方が江ノ電に乗れないことなど。そのため、市民の間にホストとしてのマイナスの感情があるので、市民全体でホストの意識が向上すると良いと思う。まず住んでよかったの部分の向上をお願いしたい。

(会員) 江ノ電の混雑は社としても問題だと思っている。定期外旅客数が過去最高の2桁伸び率で推移している。輸送力にも限界があるので、分散化、平準化の取り組みをしているが、抜本的な対策が必要と社内でも協議している。バスや他の公共交通機関への転換も必要だが、一方で道路の交通渋滞の対策も必要であり、市だけではなく、県なども絡めて抜本的な対策を検討する段階ではないか。

(会員) 輸送人員の増加が今年は特に激しい。9月の末で乗客数の増加が80万人を超えた。客の安全確保のためには、ホームに案内できる客数にも限りがある。また外国人観光客の増加も感じており、案内看板やサインの見やす等も含め、観光協会や江ノ電と対応策を模索している。

- (会長) 平日、休日ともに増加しているのか。
- (会員) 天候に大きく左右される。曇りや雨だと人数は減る傾向にあるが、平日40万人ほど増加している。
- (会員) マイカーでの来訪が住民としては一番困る。もう少しパークアンドライドを推進してもらいたい。特に、大船地区は民間駐車場も多くなってきていることから、大船から鎌倉に電車で行く事もよいのではないか。
- (会長) 交通計画課などと協議したい。

(3) 報告事項② 「鎌倉市観光に関する市民意識調査報告書」について 及び(4) 意見交換

事務局から「鎌倉市観光に関する市民意識調査報告書」の説明を行い、その後意見交換を行った。

- (委員) 2000人が対象との事だが、一部は想像もあるのではと思うが、多くの市民がこの調査によく答えたなど感じる。総じて、これだけの観光客を支えるのに、17万人の税金のみではまかないきれないのは周知の事実。八幡宮の段葛の改修も多くの補助金がでていと聞いているが、市としても、国からの補助金確保を行い、市民の努力との両輪で観光の施策を行ってもらいたい。
- (委員) 20歳以下の世代の回答が非常に興味深い。この層が今後の鎌倉の町づくりを支えていくことになるだろう。若年層の関心を高める工夫が必要ではないか。
- (会員) 観光客からお金を集める点について、来年4月から市民はゴミ処理にお金を払うのだから、観光ゴミステーションへ捨てるゴミ袋も、有料で販売すれば、市民の観光客に対する理解も得やすいのではないか。
- (会員) 観光客への負担を、入場料を上乗せすべきとの回答が出ているが、市内の神社の数は39社、寺は100超えるが、神社で有料の場所はないので、そう言う意味では心苦しい。また段葛の改修については、史跡保存として国の補助事業という位置付けであり、県、市には文化庁にかけあってもらった結果実現した経緯があり、一神社の整備では無く、それゆえに自由に出来ない部分もある。税金でやっているとの発言を多く聞くが、国の史跡保存事業であることをもっと知ってもらいたい。また、オリンピックで東京に来た人が、京都に観光に行くかと言えば、多分鎌倉を選ぶだろうから、何人来られようと癒しと信仰の空間を提供できるよう我々は説明責任を果たす必要がある。ゴミの有料化についても、一方ではマナーを説明する点では鎌倉の責任である。寺社では持ち帰りを丁寧に説明している。手近な場所から小さな改善を進めて行きたい。
- (会員) 観光が市民生活に影響を与えているとの発言から、市民の方は観光へのマイナスイメージが強いと感じていたが、一方でインバウンドを進めるべきとの回答や、市民が積極的に観光に参加すべきとの回答があり、我々観光協会の事業が市民にとってマイナスばかりでないと感じ安堵している。
- (会員) 私自身も約30年間市民だったが、観光が市民に与える影響が変化したと感じ

る。道路渋滞や交通での不便さを感じる。警察の立場としては、花火などのイベントの警備で行政と対応することが多いが、今年は特に海水浴場のマナーの悪化を感じた。また、オリンピックについても東京に近い神奈川は災害対策をはじめ、津波、地震などの対策も求められる。

(会員) 鎌倉はよその地域にはない財産があることを、みな認識している所だが、今ある鎌倉の財産を守るだけで、世界遺産登録につながると確信している。また市民意識調査については、鎌倉に対する若者の意識、熟年の意識が違うと思う。若者は海岸を含めた鎌倉の魅力を楽しみ、一方で熟年は神社仏閣といった魅力を楽しむ。この二つの魅力を並行して伸ばし、鎌倉の素晴らしい街にしていきたい。

(会員) 市民意識調査の結果には、まさに毎日私どもが活動を通じて感じている事が表れている。大事にしなければいけないのは、客の満足度だけでなく、宗教施設などの威厳を守りつつ、市民との問題が起きないように気を付ける点である。ソフト面、ハード面ともに改良して行くべき点はあるが、皆様と協力していきたい。

(5) 報告事項③ 「国際観光部会検討結果報告書」について
事務局から「国際観光部会検討結果報告書」の説明を行い、その後会員から次の意見が寄せられた。

(委員) 過去二回鎌倉では海藻とあじさいの国際シンポジウムが開催されたが、今後も積極的に学術シンポジウムを開催してもらいたい。

(6) 情報交換

各団体から観光関連のトピックスの提供

(観光協会) 段葛の改修に伴い平成27年度の鎌倉まつりにおけるパレードは中止する。また併せてパレードの開催方法についても、検討をしていきたい。

(鶴岡八幡宮) 段葛の改修は、11月1日に起工式を行い、年内に全面を囲い、桜を抜き取る。併せて土も入れ替えを行い、積み石も亀裂の継ぎ直しを行う。来年の今頃、新たな桜を180本植樹し、平成28年3月の竣工時には桜が咲く予定。

4 その他

事務局から「かまくら想いプロジェクト」及び今年度の海水浴場の開設状況の概略を説明。また次回の会議開催については、推進協議会は年度明けの5月頃、進行管理委員会については例年夏ごろの開催だが、観光基本計画策定委員会との関係で変更となる可能性があることを伝える。